NEWS RELEASE

2014 年 3 月 6 日

報道各位

会社名　　日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表者名　　代表取締役社長　吉田　一正
（コード番号：6063　東京証券取引所JASDAQ）

日本エマージェンシーアシスタンスがインドネシアで開催された「Medical Excellence JAPAN セミナー」に参加、出展しました

先月２月 27 日にインドネシア・ジャカルタにて開催された「Medical Excellence JAPAN セミナー」に、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社(略称：EAJ、本社：東京都文京区、代表取締役社長：吉田一正、URL：http://emergency.co.jp/)はインバウンド（外国人患者受け入れ）機関として参加し、外国人患者の受け入れに関する当社のサービスについてプレゼンテーションを行ったほか、提携医療機関の資料などを紹介するブースを出展しました。

セミナーには、インドネシア側から保健省保健局長 Dr. Akmar Taher をはじめ、約 160 名の医師、医療関係者が参加しました。日本側からは、在インドネシア日本大使館の島田順二公使、Medical Excellence JAPAN（以下 MEJ）の内田牧男理事、田中紘一京都大学名誉教授、唐澤克之駒込病院放射線診療科治療部長、森田圭紀神戸大学医学部附属病院消化器内科講師、当社を含むMEJ 会員企業 12 社の関係者が参加し、双方の参加者は総勢 200 名を超えました。

当社は、MEJ のインバウンド案件を扱う企業の代表として出席し、ブースに集まった現地の医師や関係者に、インドネシア人患者が日本で医療を受ける場合の当社サービスの説明や当社の提携する医療機関のパンフレットを参照しながら日本の医療の強みについて紹介しました。

セミナーに先駆けて、経済産業省担当者、日本の医師、企業関係者の代表が、インドネシア保健省を訪問し、保健局長とインドネシアとの医療協力推進について協議しました。

ケンピンスキーホテルで開催されたセミナー第1部の「全体会議」では、公使や MEJ 理事のスピーチに続き、生体肝移植の権威である田中紘一名誉教授が「Establishment of Indonesia-Japan Joint Center for Diagnostic Treatment of Digestive Disease」の標題で講演を行いました。

続くセミナー第2部の「ワークショップ」では、当社は「治療分野」に出席し、外国人患者へのコーディネートサービス（※）についてプレゼンテーションを行いました。

セミナー終了後には、患者送り出しを希望する現地医療関係者と打ち合わせを行うなど、当社のインドネシアからの患者の受け入れ経験をアピールでき、インドネシアにおいて日本でのインバウンド受入の認知度を高める良い機会となりました。

当社は、今後も東南アジアを重点地域のひとつとして、積極的にプロモーション活動を展開し、日本への外国人患者の受入を積極的に推進してまいります。

（※）国際医療コーディネートサービスとは、日本での治療を希望する外国人患者に対し、EAJ が提供するサービスで、日本の医療機関における治療の手配、日本での医療ビザ発行の支援、日本滞在中の支援、治療に際しての医療通訳、医療者への支払代行等の一連のサービスを提供するものです。



セミナー全体会議後の記念撮影。田中紘一名誉教授の「日尼消化器病診断治療センター」プロジェクトなどが注目を浴び、現地複数のメディアにも取り上げられた。
（中心右：田中紘一京都大学名誉教授　中心左：Dr. Akmar Taher）

■本件に関するお問合せ先
国際医療事業部
電話：03-3811-8160

以上

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
Copyright Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All right reserved.